

学校の共通目標

<b>授業作り</b>	<b>重 点</b>	落合二中言語モデルによる、校内共通スタイルの話し合い活動の実施（共有化）	<b>中 間 評 価</b>		<b>最 終 評 価</b>	
<b>環境作り</b>		①タブレット端末、ICT 機器の教員・生徒双方による授業内活用、教室設置のスクールタイマーの活用(視覚化) ②家庭学習の定着を目指した「家庭学習の手引き」作成、連絡帳での学習状況把握、声かけ（個に応じた指導）				

教科の取組内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
<b>国 語</b>	<p><b>調</b> 新宿区学力定着度調査では、第2学年については全ての観点において、全国・区のスコアを上回った。第3学年については、「書くこと」の観点以外で区のスコアを下回った。特に漢字の書き取りにおいて、最もその差が大きかった。漢字の書き取りについては、第2学年においても他の観点に比べて苦手が見られた。今後は、生徒個人端末や副読本を活用し、定期的な小テストを行い、上記の苦手を改善していく。</p> <p><b>学</b> 日常的な学習状況において、家庭学習が不足していたり、活動が煩雑な生徒ほど、漢字や文法などの基本的な知識・技能においてつまずきが見られる。中でも、漢字においては、書き取りと同音異字について課題のある生徒が多い。電子機器の「変換機能」を日常的に利用する生徒も多く、生活様式の変化の結果とも考えられる。今後は、生徒個人端末も利用しつつも、その利便性を補うような漢字の反復学習が必須である。</p>	<p><b>調</b> 漢字の読み書き・文法・古文に関する知識など、「言語事項」が定着していない生徒が多い。特に、第1学年の小学校レベルの漢字の読み書きの学力低下が著しい。</p> <p><b>調</b> 「書くこと」「話すこと」に関する項目など、自己を表現することに苦手意識をもつ生徒が多い。</p> <p><b>学</b> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」に苦手意識をもたない生徒であっても、技術としてそれらの項目を身につけていないため、自分の記述や発言の内容を客観的に評価し、推敲できない生徒が多い。</p>	<p><b>調</b> 言語事項における知識を指導する際は、小テストや漢字テストを行い、家庭学習で鉛筆をもち、字を書く時間を多く持つよう指導する。また、生徒用端末を活用し、日常的に課題を出すことで、生徒に家庭学習を定着させていく。</p> <p><b>調</b> 個別指導に重点を置き、生徒の表現の機会を多く設ける工夫をしていくとともに、構成メモの段階での評価も行うなどスモールステップを多く設定し成就感をもたせる工夫をする。</p> <p><b>学</b> 「書くこと」「話すこと」に関する力については、「知識・技能」と「思考・判断・表現」との内容の差を授業にて明らかにし、特に知識・技能については、繰り返し音読したり書かせたりして反復学習を徹底する。</p> <p><b>学</b> 家庭学習において、デジタルドリルの積極的な活用を呼び掛けていく。</p>		
<b>社 会</b>	<p><b>調</b> 新宿区学力定着度調査では、第3学年はすべての項目において全国・区平均を上回り、おおむね良好な結果であった。第2学年は、「日本の姿」に関して、他の項目と比較して苦手が見られた。</p> <p><b>学</b> 世の中の様々な社会的事象に関心をもちながら、日頃の授業には意欲的に取り組む様子が見られる。また、第3学年の生徒を中心に、今までの既習事項の復習を自主的に行っている生徒もいる。一方で、日常的な学習習慣が身に付いていない生徒もあり、学習した内容を定着させることに課題が見られる。</p>	<p><b>調</b> 第2学年・第3学年ともに、短答問題を誤答もしくは無回答とする場合が多く、基本的な知識を身に付け、定着させることに課題が見られる。</p> <p><b>学</b> すでに学習した知識と結び付けながら、新たな学習内容について考察することを苦手とする生徒が多い。</p> <p><b>学</b> 地図、統計資料、文献等の資料から読み取れることを整理し、表現することに課題がある生徒が多い。</p>	<p><b>調</b> 地図などの資料の活用方法、都道府県名と位置といった、あらゆる学習活動の前提となる知識を確実に定着させるため、授業内で積極的に復習を取り入れたり、小テストを実施したりしていく。</p> <p><b>学</b> 社会的事象の原因や結果、社会にもたらした影響等について考え、自分の考えをまとめるとともに、発表する機会を設けていく。</p> <p><b>学</b> タブレット端末、ICT 機器を最大限に活用し、地図や写真等の資料を効果的に提示しながら、視覚的な理解を促す授業を行う。</p>		
<b>数 学</b>	<p><b>調</b> 新宿区学力定着度調査では、第3学年はすべての項目において全国・区平均を上回り、おおむね良好な結果であった。特に図形の領域における平均正答率は82.4%と、全国の65.6%を大きく上回った。一方、第2学年はすべての項目において全国平均を上回ったが、区平均を下回る結果であった。特に「基礎」においては、63.1%と、区平均の66.7%を大きく下回った。</p> <p><b>学</b> 授業には意欲をもって取り組み、答えに至るまでの途中式や自分の考えを丁寧に書く習慣が身に付いている生徒が多い。一方で、基礎的な技能や既習事項の定着が不十分な生徒もいる。</p>	<p><b>調</b> 第2学年は、「数と式」の領域と「基礎」において区平均を下回ったことから、基礎・基本の定着が不十分である。特に式が表している数量がわかる問題が苦手である。また、既習事項を活用して、発展的な学習内容に対する思考力を身に付けさせることも課題である。</p> <p><b>調</b> 一次関数に対して苦手意識をもつ生徒が多い。ICT機器を用いるなど、生徒が関数に対して理解を深められる授業方法を検討していくことが必要である。</p> <p><b>学</b> 基礎的な技能や既習事項の定着が不十分な生徒について、家庭学習で学習内容を復習する習慣が身に付いていないことに課題が見られる。</p>	<p><b>調</b> 特に課題のある領域「数と式」「関数」は、演習を多く取り入れて計算力を確実に定着させるとともに、多様な課題を取り上げて既習事項の確認を行い、多くの解決方法を示す。また、「関数」の領域に関しては、デジタル教科書やICT機器を積極的に取り入れ、視覚化された授業を行う。</p> <p><b>調</b> 生徒が文章題に対して数学的な表現を用いて説明し合い、解決できるように話し合い活動を充実させる。</p> <p><b>学</b> 少人数授業での教え合いや学び合い学習を出来る範囲で取り入れて、数学に対する関心・意欲を高め、思考力を深める場面を多く取り入れる。単元テストや小テストで確認しながら、苦手とする内容のやり直しを徹底して行わせる。</p> <p><b>学</b> 家庭学習において、デジタルドリルの積極的な活用を呼び掛けていく。</p>		

理科	<p><b>調</b> 新宿区学力到達度調査では、第3学年ではすべての項目で、全国平均・区平均を上回った。しかし第2学年ではすべての項目で全国平均・区平均を下回った。特に、基礎的な内容が十分に定着できていない。そのため、知識を用いた活用問題や思考問題にも課題が残った。第3学年は引き続き、問題演習などを行い、更に強化していく。第2学年は復習テストなどを行い、まずは基本的な内容の確認を徹底する。</p> <p><b>学</b> 計算問題などに多く直面することで理科への苦手意識が高まっている傾向がある。そのため、感染症予防対策をしながら観察・実験を行ったり、教室で演示実験や実験動画を見たりすることで、まず理科への興味関心をもたせ学習への意欲をもたせる。また身の回りの生活に科学が活かしていることにも気が付かせることで主体的に学ぼうとする姿勢を養う。その上で小テストやデジタルドリルなどを活用し復習を習慣化していく。</p>	<p><b>調</b> 観点別の「自然事象についての知識・理解」に特に課題が見られる。</p> <p>また、実験操作などの基本的な正しい知識を身につけるところにも課題が見られる。</p> <p><b>学</b> 学習した内容を活用して演習問題を解くというところや、知識を定着させるところに、課題がある。</p>	<p><b>調</b> 単語テストなどを繰り返し実施し、知識の確実な定着を図る。また前年度に引き続き、観察・実験前に、目的をしっかりと説明し、結果に対しての予想を立てて行う。そして、実験手順を確認する時間をとることで、実験操作を正しく理解することができるようにする。</p> <p><b>学</b> 授業での問題演習や小テストなどを行っていく。また、家庭学習で行う項目を具体的に示し、期限を決めて宿題やレポートとして提出させる。また ICT 機器でのデジタルドリルによる復習や実験動画などの視聴など、家庭学習を定着させることで、知識の定着を図っていく。</p>		
英語	<p><b>調</b> 新宿区学力定着度調査では、どの観点も全国平均を上回っていた。</p> <p><b>学</b> 即興で英会話する指導を続けて行ってきたことで、コミュニケーションへの意欲が高まり、少しずつ力を付けてきている。コミュニケーション活動は今後も続けていく。</p>	<p><b>調</b> 表現の能力に課題が見られた。英作文は表現しようとする意欲は高いものの、正確性に欠ける部分がある。</p> <p><b>学</b> 新宿区学力定着度調査と同様、文章表現では正確性において課題が見られた。</p> <p><b>学</b> 英語はできないと決めつけてしまっている生徒も少数だが存在する。英単語や英文を覚える、書くことに抵抗がある生徒もいる。</p>	<p><b>調</b> 前年度に引き続き、英作文の課題に多く取り組ませ、よくあるミスなどを共有することで、正確に表現できる力を身に付けさせる指導を行っていく。</p> <p><b>学</b> 書く力を高めていく指導を行っていくなどライティングに力を入れて授業を行う。また、基本的な表現のチェックテストを行い、基礎基本の定着を図っていく。</p> <p><b>学</b> 成功体験を積ませるように課題のレベルを考え、簡単なものから授業に取り入れ、スモールステップで課題を達成できるようにする。デジタルドリルを用いた家庭学習の習慣化を図り、語句・文法の基礎・基本の定着につなげる。</p> <p><b>学</b> 教科書にある QR コードを活用し、自宅で予習復習ができるような環境を整え、授業に臨ませる。</p>		

**調**…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

**学**…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。